



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/10 (月)	+ 600	▲ 8,000	▲ 7,400	流動性供給 国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	CP等買入 ▲100 国債補完供給 400	国債補完供給 ▲ 1,000	日：金融政策決定会合における主な意見 (10月29・30日分) 中川日銀審議委員、岡山市で講演
11/11 (火)	トン	+ 2,000	+ 2,000				日：貿易収支 (9月)
11/12 (水)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (30年) 源泉所得税揚げ	共通担保 ▲ 8,000		
11/13 (木)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000				米：CPI (10月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (9月)
11/14 (金)	▲ 1,000	▲ 24,000	▲ 25,000	国債発行 (5年)			米：小売売上高 (10月) PPI (10月) 欧：ユーロ圏GDP (3Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比28,400億円減少し、494兆8,700億円から始まった。その後、税・保険揚げや国債買入オペ、普通交付税交付金等の要因により増減し、7日は493兆5,200億円 (速報) で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.476%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。
ターム物は1W～3W物0.470%～0.650%のレンジ、1M～3M物0.520%～0.700%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では10日に金融政策決定会合における主な意見 (10月29・30日分) の公表、海外では13日に米CPI (10月)、14日にユーロ圏GDP (3Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.52 ～ 0.62
2M	0.58 ～ 0.65
3M	0.61 ～ 0.70
6M	0.75 ～ 0.90

<レポ>

足許GCは週を通して+0.495%～+0.50%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった6日や、短国の発行が重なった7日の取引も水準に変化は見られなかった。
SC取引は2年470～477回債、5年155～181回債、10年355～371、378～380回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.60 ～ 0.75

<CP>

今週の入札発行総額は約9,900億円で、週間償還額の9,680億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆4,327億円から、11月6日時点で23兆2,609億円へと減少した。発行市場では、卸売業・石油製品・不動産で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台後半、3か月物で0.60%台後半を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約8,100億円となっている。発行市場は、大型案件の償還に対して一定の資金調達需要があることから、相応の発行が見込まれる。発行レートは、1M物では0.50%近辺での出合い、12月の金融政策決定会合を越える案件については、日銀の政策修正への警戒感からレート水準を探る展開が見込まれる。

<TDB>

6日の6M (1342回債) の入札は、最高落札利回り0.6034% (前回債0.6034%)、平均落札利回り0.5893% (前回債0.5933%) となった。
7日の3M (1343回債) の入札は、最高落札利回り0.4773% (前回債0.4747%)、平均落札利回り0.4713% (前回債0.4690%) となった。
来週の入札は14日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。